



●卒業後も頑張してほしい！

今年は146名が学園を卒業していきます。海外だけでなく日本全国から集まった様々な経験や異文化的背景をもつ生徒に囲まれて、最初は戸惑うことも多かったかもしれませんが、そのことは、将来に活かせる大きな財産となっているはず。日常生活だけでなく様々な行事に取り組む中で、異なる環境で生まれ育った仲間たちと“共に生きる術”を学んだことと思います。

帰国生や外国人生徒を学園に受け入れることは、様々な葛藤や苦悩を生徒や教師に課すことにもなるのですが、それを通して、相手の立場に立つことの意味と同時に、相手と共感することの大切さを学んでいるのです。多くの先輩たちが、社会のあちこちで高い評価を受け、活躍してくれていることが、何よりの証でしょう。

卒業後には、また新たな出会いがあると思いますが、学園で学んだ正しい判断力に基づく自律の心と相手の価値観を認めつつ共感する寛容さを持った共生の姿勢を大切に、それぞれの夢を実現するための努力を続けていってもらいたいと願っています。

広尾学園中学校高等学校
 (前、順心女子学園中学校高等学校)
 〒106-0047 東京都港区南麻布 5-1-14
 TEL. 03(3444)7271 FAX. 03(3444)7192
www.hiroogakuen.ed.jp

小山 和智

おやま かずとも

広尾学園中学校高等学校 国際担当
 (前、順心女子学園中学・高校)



海外子女教育振興財団の外国語保持教室主任のほか、ジャカルタ日本人学校事務長、クアラルンプール日本人学校国際交流ディレクター、啓明学園国際教育センター所長を歴任。

現在は「グローバル化社会の教育研究会」の事務局長としても活躍中。

<http://www.toshima.ne.jp/~kyoiku/>

英語補習校だより (8)

本当の学力を育てる - 2

2月3日(土)、横浜市で「EFFECT 教育セミナー」が開かれました。基本的な構成は、北米各都市で開催されるINFOEの「教育フェア」と同じですが、テーマは「子どもたちの進路とホンモノの英語教育を考える」でした。

20年前から、教育の理想型が「25歳の自己イメージ」を大事に職業観や人生観まで育てていくこととされているものの、実際には大学入試を最終ゴールと誤認する教育が横行しているのも事実です。まして漠然と「英語さえできれば...」と、よく考えもせずに早期英語教育を施すことの危険性や難しさについては、きちんと説明される機会はありません。

冒頭の松本輝彦さん(本誌編集長)の講話でも、その後のパネル・ディスカッションでも、教育現場の実情が誠実に伝えられたわけですが、来場された皆さんには相当なショックだったようです。当然ながら、玉川学園の国際学級と広尾学園「インターナショナル・コース」で導入されるインターナショナル・バカロレア(IB)も話題となりました。これもかなり“刺激的”だったことでしょう。

社会のグローバル化が進む中、子供たちの「意味ある将来設計」と「今必要な」英語教育のあり方などについて、真剣な話し合いの輪が広がっていくことを願っています。

<http://www.toshima.ne.jp/~kyoiku/Eigo-Hoshuko-J.htm>



4月から生まれ変わる広尾学園の刻々と変わる状況の報告です。男女一緒に初めての入試も無事に終わって多くの男子生徒が誕生し、日本の学校を無事終えた帰国生の卒業生も巣立って行くようです。最新情報ありがとうございます。

この学校の目の先の変化に目を取られそうですが、学校の基本である生徒一人ひとりへの指導を「P.L.T.プログラム」で実践して成果を挙げているとの事、安心しました。

先日、日本へ帰国するお母さんから「娘の為に本当に良い学校を教えてくださいました。無事、高校に編入できました。」と感謝されました。編入後のお世話をよろしく願いますよ。小山先生!